

青梅市文化財ニュース

第304号

平成25年2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市立第二小学校

皆さんも御存知のことかと思いますが、青梅市は昭和26年青梅町と調布村・霞村の1町2村が合併して誕生しました。その中心はやはり青梅町で、青梅町の学校が第一小学校で、旧調布村の学校が「青梅市立第二小学校」となりました。この学校の歴史を遡ってみますと明治時代初めまで遡ることができます。

慶応3年10月、徳川幕府第15代将軍徳川慶喜は大政を奉還し「明治」という時代になりました。明治になったとはいえ薩長の新政府が完全に日本全国を掌握するまでに1年以上の時を要して、その後に新政府は近代国家としての改革をものすごい勢いで進めていきました。それまで決まりの無かった師弟の教育についても、明治4年7月に文部省が設置されました。そして、明治5年7月に太政官布告という形で「…一般の人民村に不学の戸無く、家に不学の人無からしめん事を期す、…」という有名な「学制」を發布し、各村々に学校を設立するよう布達を出しました。こうして、各村々は学校設立に向けて動き始めたのでした。したがって、ほとんどの学校が、明治5年7月以降に創立されています。しかしながら青梅市立第二小学校は、なんと、「学制」が發布される1年前の明治4年(1871)5月には前身となる「協心神習舎」という名前で、下長淵村字寺改戸の地に学校が設立されたのです。

この辺のいきさつを詳しく見てみますと、明治3年前橋藩から領内の村々に国学者についての照会がありました。これを受けて上長淵村名主中村猶太郎・小丹波村名主原島定平・沢井村上分名主福田勝三・上広瀬村取締役清水寛一郎の4人が、乗願寺村の斎藤眞指が国学を志している旨を回答しました。これを受けて前橋藩が斎藤眞指にその考えをただしたことに対して、彼は、日頃考えていたことを「皇学校之儀ニ付眞指ヨリ建言」という形で提出しました。この中で眞指は、積極的に平田篤胤の学派を取り入れて皇学校を設置することを進言し、このことは私共が、
へいぜいかつぼうつかまつりそうろう
「平生渴望仕候皇学校」であり、そのように計画すればおいおい領内の村々にも学校が創設されるようになるかと持論を展開しています。そしてこの後に、前述の4人の名主たちがこの眞指の建言書をぜひとも取り上げてほしいと副申しています。そうして、翌明治4年(1871)5月（廃藩置県断行の2か月前）前橋藩の意向に沿って、下



第二小学校の校長室に掲示の有栖川宮熾仁親王殿下（東征大総督）「神習」の書

長淵村玉泉寺を仮校舎として開校しました。加えて、翌明治5年2月廃寺となった宝珠院の跡地に正式に公立の学校として開校したのです。

この時代の変化はめまぐるしく、政府や制度の流れが理解できていないとなかなかわかりづらいところがあるので、少し説明を加えますと、廃藩置県を断行したといっても藩をそのまま県としたために全国に270余りの県ができました。実質的に改革されたのは、明治4年11月の府県改置によってで、この改正で3府72県となり、この青梅市域は神奈川県になったのです。そして、神奈川県では、文部省の布達を受けて明治5年3月29日に「私塾開設の許可、塾則の提出に関する事」という布達を県下に示したのです。それは、このたび、文部省の免許を受けたうえで開塾するやうにとの布告があったので、4月末までに書面を提出するやうにということでありました。そこで明治5年4月7日に、「3月25日に開校」したという届を神奈川県に提出したのです。

青梅市立第二小学校の設立の過程をたどってみますと、明治4年、最初村の学校として設立したものが、翌年文部省が設置されたことにより、公立の教育機関へと転換がはかられたといういきさつがあるのです。

筆者も詳しく調べたわけではありませんが、現立川市立立川第一小学校（柴崎村立小学校）も、明治5年発布の学制以前（明治3年）にできた学校として、青梅市立第二小学校と同じような経過をたどったのではないかと思います。いずれにしろ、学制以前にできた学校ということで、立川一小と青梅二小は地域の誇りとなっています。

ところで、協心神習舎は、上下長淵村に建てられた学校です。調布地区の駒木野村、千ヶ瀬村、友田村、河辺村はどうであったかを見てみますと、神奈川県は、明治6年5月5日に「小学舎設立につき督励のこと」という通知を出します。これは、5月25日までに学舎を設置するやう取り計らうこと、なおざりにして遅れた場合は何らかの注意があるので心得ておくことと県下に指示しました。これを受けて各村々は、学校設立を急ぎ、神奈川県県令あて創立届を提出しました。上下長淵村は協心神習舎より「神習学舎」、駒木野村では、寿香寺に「臥龍学舎」、友田村では華蔵院に「友華学舎」、千ヶ瀬村では聚徳院に「千賀瀬学校」、河辺村では東圓寺に「桃盛学舎」を設立しました。現在の市内の番号制の学校のほとんどが、明治6年の創立になっているのは、このためです。その後明治22年に町村制が実施されて、これらの村々が合併して調布村ができました。調布村ができてからも神習学舎が中心となり、旧各村の学校は第二小学校の分校として本校に吸収されるまで存続しました。そして、現在新たに、河辺と友田にそれぞれ単独校として河辺小学校、友田小学校が設立されています。現在青梅二小では、開校以来142年の歴史の中で17,314名の卒業生を送り出し、この3月には新たに134名の卒業生を巣立たせる予定です。また、校舎の鉄筋化も市内で一番早かった関係で、耐震化工事ができないほど老朽化していたということもあるようですが、2度目の改築工事を行っています。完成すれば、オープンスペースや中庭がある洒落た校舎がひととき目を引くことと思います。これからも市内最古の学校として伝統を引き継いでいってほしいと思います。

（文責 神森 正）

参考文献 「青梅学校 創立100年史」 「神習のあゆみ」